

広報

第946号

いながわ

6

月

平成30年



芝生の上でジャ~~~ンプ!! (子育て支援センター)

特集

災害を知り、伝える ～減災について考える～

「猪名川町の未来を描く高校生フォーラム」

発案イベント開催 8

猪名川町の実は…え!? ホンマ!?

水道モニターって知ってる? 19

いながわの星空 たて座 25

瞬(ときめき) 祐谷 くるみさん 26

私のオススメ★ 27

最徳寺と酒蔵のある風景

特派員報告 28

国崎クリーンセンター ゆめほたる



早くおいしいジャガイモにな～れ!!(広根)

災害を知り、伝える

～減災について考える～



梅雨の長雨や突然の大雨（ゲリラ豪雨）・台風などは私たちの生活に大きな被害をもたらすことがあります。

また、近年発生するといわれている南海トラフ地震などを含め、いつ・どこで起こるかわからない自然災害。

今号では、様々な自然災害について「知り」「伝え」「防ぐ」ことを考えます。



平成 26 年 8 月 10 日撮影 (柏梨田)

平成 26 年 8 月 10 日撮影 (笹尾)

近年、日本各地で様が増えており、大規模あら豪雨による洪水、土相次いでいます。本町年の台風18号集中豪雨11号豪雨災害、29年の災害などは、皆さんのいでしょう。

大雨などの自然現は、私たちには防ぐこん。しかし、目の前に害や土砂災害、大きなし、災害発生時の被害らすことは可能です。

近年、日本各地で様々な自然災害が増えており、大規模な震災やゲリラ豪雨による洪水、土砂崩れなども相次いでいます。本町でも、平成25年の台風18号集中豪雨、26年の台風11号豪雨災害、29年の台風21号暴風災害などは、皆さんの記憶にも新しいでしよう。

大雨などの自然現象の発生自体は、私たちには防ぐことができません。しかし、目の前に迫り来る風水害や土砂災害、大きな地震などに対し、災害発生時の被害を少しでも減らすことは可能です。

「減災」の重要性

自然災害による被害を最小限にとどめようとする考え方を「減災」といい、阪神・淡路大震災以降、積極

自然災害による皮

自然災害による被害を最小限にとどめようとする考え方を「減災」といい、阪神・淡路大震災以降、積極

中期の復旧・復興は、いかにも「日本」らしいものである。

大切な命のために「知り、伝える」

今号で紹介するように、過去に町内で起こった災害のことや東日本大震災での実体験や現状を知ること。また、阪神・淡路大震災の教訓から神戸市に建てられた施設「人と防災未来センター」で、震災を体感したり、災害について学ぶこと。これら一つひとつの積み重ねが、自分自身や家族の大切な命を守ることにつながります。

災害の怖さを「知り」大切な人に「伝える」ことで、「防災・減災」について考え、備えましょう。

災害被害を少なくする 「自助」「共助」



企画総務部 総務
危機管理室
ふくだ じゅん
福田 潤室長

い。町の発信情報は、町ホームページで確認いただけるほか、「いなばうネット」に登録いただきますと携帯電話などへメール配信されますので、ぜひご利用ください。

ご家族で防災会議を開くなど、災害時の連絡体制や、避難所の場所など、家族の行動を確認しておきましょう。

また、災害時は地域や身近にいる人同士で助け合う「共助」こそが被害を少なくするための大きな力となります。地域で団結した行動を取れるよう日頃から話し合うことも大切です。

なお、各地域で水防訓練（土のう作成・備蓄）を行う場合は、必要経費に対する助成がありますので、ご活用ください。



A person in a blue protective suit and mask is shown from the side, bending over to stack white sandbags on a grassy slope. Other people in similar protective gear are visible in the background, standing near a line of sandbags. The scene is outdoors on a paved surface next to a grassy area.

近年町内で発生した主な災害

発生年月日	災害	概要	被害
平成 25 年 9 月 15 ~ 16 日	台風 18 号 集中豪雨	台風接近に伴う風雨により、15 日 2 時から 16 日 10 時までの連続雨量が 200mm を超え、道路の冠水や住家浸水被害のほか、河川や農地にも被害があった。	住家床下浸水（1 棟）、町道路・河川被害（9 件）、農地・農道被害（38 件）、水路等被害（13 件）
平成 26 年 8 月 9 ~ 10 日	台風 11 号 豪雨災害	台風接近に伴う風雨により、9 日未明の降り始めからの総雨量は 48 時間 288mm、特に 10 日 10 ~ 13 時の 3 時間雨量は 100mm 以上を記録した。道路の冠水や住家浸水被害のほか、河川や農地にも甚大な被害があった。	住家床上浸水（2 棟）、住家床下浸水（17 棟）、町道路・河川被害（16 件）、農地被害（11 件）、水路等被害（8 件）
平成 29 年 10 月 22 ~ 23 日	台風 21 号 暴風災害	台風接近に伴い風雨が強まり、連続雨量 130mm を記録する雨のほか、風は瞬間最大風速 22.9m/s を記録した。暴風雨の影響で多数の倒木、落石などによる道路通行止めや停電被害などのほか、住家被害も発生した。	人的被害（1 件）、住家被害（2 件）、町道路・河川被害（11 件）、公園緑地被害（5 件）、農地・農道被害（25 件）、水路等被害（6 件）、停電（約 5,670 件）



被災した旧山下駅周辺



被災した水神沼周辺



被災した戸花橋周辺



避難所の様子



整備後のつばめの杜地区（平成28年度）

私は、今年の3月に山元町・亘理町で構成する亘理消防本部を定年退職し、4月から2年間の任期付きで防災担当職員として山元町で勤務しています。猪名川町の皆さんも記憶に新しいと思いますが、2011年3月11日、山元町民637人の命を奪った東日本大震災が発生しました。当時宮城県では、今後30年以内に90%以上の確率で宮城県沖地震が発生すると予測されていました。地震発生時、「ついに起つたか」と思いましたが、マグニチュード9.0、震度6強（山元町）の揺れはその予想をはるかに上回るものでした。通常、揺れの時間は30秒程度でも感覚的に1~2分位と長く感じますが、その時は実際に3分程度激しく揺れ、事務室の本棚などは時間とともに将棋倒しのように倒れていきました。

私は、今年の3月に山元町・亘理町で構成する亘理消防本部を定年退職し、4月から2年間の任期付きで防災担当職員として山元町で勤務しています。猪名川町の皆さんも記憶に新しいと思いますが、2011年3月11日、山元町民637人の命を奪った東日本大震災が発生しました。当時宮城県では、今後30年以内に90%以上の確率で宮城県沖地震が発生すると予測されていました。地震発生時、「ついに起つたか」と思いましたが、マグニチュード9.0、震度6強（山元町）の揺れはその予想をはるかに上回るものでした。通常、揺れの時間は30秒程度でも感覚的に1~2分位と長く感じますが、その時は実際に3分程度激しく揺れ、事務室の本棚などは時間とともに将棋倒しのように倒れていきました。

全国からの応援に感謝

うな災害が全国各地で発生しています。

最近の自然災害を見ると、これまでとは違った形での災害が増加しているように思えます。火山噴火での噴石直撃や、冬季の雪崩による人的被害など、以前では考えられないよ



山元町総務課
危機管理班
松本 邦彦さん

2011年3月11日

山元町職員が伝える

みやざけんやまもとちょう
宮城県山元町

東日本大震災を伝える



平成26、29年度にそれぞれ1年間、東日本大震災復興支援派遣事業として、町職員1人ずつを宮城県山元町へ派遣したことから、広報いながわでは、「復興への架け橋」と題した現地レポートを計7回にわたってお届けしました。今号では、29年度総集編として、震災復興へ向かう山元町の様子を紹介します。

※4、5ページに掲載している写真は、山元町より提供



▲復興の架け橋
バックナンバー

復興への架け橋

平成29年度宮城県山元町派遣 児玉 加奈子主査



役場仮庁舎前で山元町の皆さんと
(写真前列中央)

被災後、全国各地からの応援をいたしました。この時私は、今回の地震の大きさを強く感じました。その後は、皆さんもご存じの通り津波によって地獄絵図を見るような光景でした。

被災後、全国各地からの応援をいたしました。この時私は、今回の地震の大きさを強く感じました。その後は、皆さんもご存じの通り津波によって地獄絵図を見るような光景でした。

【山元町の紹介】

人口 12,364人
(平成30年4月末現在)

面積 64.58km²

紹介 山元町は、冬は暖かく夏は涼しい穏やかな気候の自然豊かなまちです。農産物ではいちごやりんご、海の幸ではホッキ貝が特産で、山元町の「三大グルメ」と呼ばれています。また、それらを活かした「ほっつきめし」や「いちごジャム」などをブランド認証し、地域と一緒にになってまちのPRをしていま



す。震災ではいちごハウスや、ホッキ貝の水揚げがされた磯浜漁港が被災したことにより、生産が一時困難となりましたが、徐々に復興し、元気を取り戻しています!! 山元町ホームページ→



海の見える高台から山元町を望む

© 2018 山元町ホッキーくん #62

阪神・淡路大震災を伝える

阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

The image shows the Nagasaki Prefectural Government Office building, a modern structure with a large glass facade and a green roof. It is situated in a cityscape with mountains in the background. The building is surrounded by greenery and appears to be a significant government facility.

人と防災未来センター
▶問合せ 078-262-5050(観覧案内)
※詳細はホームページをご確認ください

阪神・淡路大震災の教訓から平成14年4月に兵庫県によって建てられた「人と防災未来センター」。震災での経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、「減災社会の実現」と「いのちの大切さ」「井に生きることの素晴らしさ」を世界へ、そして未来へと発信しています。館内では、震災当時の様子が映像やジオラマによつて体験できるほか、震災時から復興への道のりなど、震災展示、語り部による震災を語り継ぐコーナーなどがあります。

また、風水害や大規模な地震などの災害発生時に必要な対応や各個人・家庭で備えておくべきこと、防災グッズの紹介や防災・減災ワークショップなど実践的な知識も学習できます。更には、世界で発生している自然災害を学ぶ情報ステーションなどもあり、様々な視点から災害について知ることができます。

西館2・3階の案内は、ボランティアの運営スタッフによつて行われる地震の体験などに基づく震災当時の状況などをわかりやすく説明。団体向けには、語り部ボランティアによる

※震災発生当時の写真（人と防災未来センターより提供）



人と防災未来センター運営ボランティア

語り部が 伝える

ボランティア歴 16 年
秦 詩子さん (71 歳)

阪神・淡路大震災が発生したときは、家族 4 人で神戸市東灘区のマンションに住んでいました。

東灘区は、震災による死者が最も多かった地域でした。私は当時寝室で寝ていましたが、激しい揺れに、バケツの中に転がしたピンポン球のように部屋の中で転がりました。幸いなことに一家 4 人の命は無事でしたが、友人や知人の中には亡くなってしまった人もいました。私が住んでいた 10 階建てマンションは 1 階部分がつぶれてマンション全体が傾いてしまい、住める状態ではなくなってしまいました。それからの 4 カ月間、同じように家を失った人たちと公園でテント生活を送りました。避難生活を送る中で、人と人の温かいつながりができ、困った時にお互い支え合うことの大切さを実感しました。人の温もりは本当に心強かったです。支えてくれた友人や、一緒にテント生活を送った人、ボランティアの人たちへの感謝の気持ちは今も忘れません。

震災から 8 年後、人と防災未来センターが完成し、語り部ボランティアの募集を見た時に、支えてくれた人たちに恩返しがしたいと思い、語り部を始めました。私は震災を通じて、「自分の命は自分だけのものではなく、周りで支えてくれるたくさんの人たちのものもある。命は本当に重いんだ。」と感じました。これからも人の命の重みや、悲惨な震災被害に備えるために必要なことを伝えていきたいです。

ボランティア歴 16 年
荒井 勲さん (72 歳)

私はもともと人と関わることが好きで、青少年団体などの地域活動に積極的に参加していました。阪神・淡路大震災では私自身も被災しましたが、家族は無事、家は一部損壊ですみました。「何とか家には住めるな」と思った次の瞬間、「何かをしたい。何かをしてあげたい」と思いました。

避難所になっている近所の小学校へ行くと、飲み水に困っているとのことだったので、自前で 600l の給水車を作り、震災当日から避難者支援に走りました。震災から一週間後、みんながお風呂に入れていないことに気づき、急造の移動式お風呂を作って避難所に出前しました。避難所には長蛇の列ができ、避難者からは感謝の言葉を掛けられたり、中には涙を流されている人もいました。「もっと人に喜んでもらいたい」と思いました。そこで、被災者に笑顔が戻ればと、ひまわりの種を配る活動を始めました。活動の輪が広がり、夏には各所から喜びの声が添えられた、開花のお知らせが届くようになりました。

阪神・淡路大震災でのボランティア経験以降、震災ボランティアとして、新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震などの被災地を支援する活動を続けています。被災者として、また震災ボランティアとしての経験を通じて感じた「人との絆の大切さ」をこれからも伝えていきたいです。

町では、災害発生予測の状況にあわせて、庁内に災害対策本部を設置し、情報の収集、伝達を行い、災害時の被害を最小限にとどめるための体制を整えます。また、東日本大震災や熊本地震、丹波市豪雨災害などの被災地支援にも職員を派遣し、災害復旧にあたるとともに、災害の様子や対応などを学び、町の防災体制に活かしています。

町内では、阪神・淡路大震災による大きな被害はなかつたものの、強い揺れに恐怖した方も多かつたでしょう。本特集の語り部ボランティアの方の話は、当時の情景を彷彿とさせられるもので、改めて震災の恐怖が思い起こされました。

近年に起きた様々な災害の教訓を活かし、これから起こるといわれている風水害や南海トラフ地震なども他人事と思わず、私たち一人ひとりがで起きることを考え、災害に備えましょう。

